10月の道内景況 情報連絡員レポート

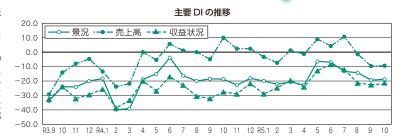
「景況」、「売上高」、「収益状況」いずれも前月比で改善賃金・物価上昇への対応が引き続き課題

概況

前年同月の比較では、「景況」、「売上高」、「収益状況」の全てが低下している。

また、9月から10月の推移では、「景況」、「売上高」、「収益状況」 の全てにおいて改善し、「景況」では若干の改善が見られた。

情報連絡員によると、製造業からは、エネルギー・原材料価格の 高騰に起因する収益低下が懸念されるものの、受注は好調であると の声が寄せられている。非製造業からは、インパウンドを中心とし た観光需要の回復が示されており、各種イベントやキャンペーンに よる経済効果を期待する声もある一方、賃金上昇などに対応するた めの価格転嫁を実現できず、収益の改善が進まないとの声が一部 事業者から聞かれている。



景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比
業界の	4	4	0.6			7.2	0		△0.1
景況	△19.4	△18.8	1	△52.6	△45.5	1	△4.7	△4.8	7
売上高			0.3			15.6			△4.6
76-11-13	△9.7	△9.4	1	△47.4	△31.8	1	7.0	2.4	7
収益	4	4	0.7			16.3			△5.0
状況	△22.6	△21.9	1	△52.6	△36.4	1	△9.3	△14.3	7

		全業種			製造業			非製造業		
		9月	10月	前月比	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比
	販売	Ċ.		△15.0	Ċ		△10.5	Ċ.	Ç	△15.7
l	価格	30.6	15.6	7	10.5	0.0	7	39.5	23.8	7
	取引		47	3.7		4	12.7			△0.3
	条件	△17.7	△14.1	1	△26.3	△13.6	7	△14.0	△14.3	A
	資金 繰り	9	4	△5.9	4	4	2.9	9	4	△9.6
		△9.7	△15.6	Ä	△21.1	△18.2	7	△4.7	△14.3	Ä
	雇用	0		9.7	0		5.3	1	0	11.6
	人員	△9.7	0.0	1	△5.3	0.0	1	△11.6	0.0	1

天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」) したという回答 (構成比) から 「減少」(または 「悪化」) という回答 (構成比) を差し引いた値 (DI) をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

食料品

- ◆中国による日本産水産物の輸入禁止措置が帆立の加工実績に影響している。・秋鮭漁について、網走では昨年実績を上回っているが、道内全体では前年比68%(約50,000トン)の状況である。(網走)
- ●昨年より値上げできているが、取扱数量が減少しているため収益は悪い状況である。 (全道)
- ●味噌出荷量(道内):単月(令和5年9月)前年対比 84.7% 醤油出荷量(道内):単月(令和5年9月)前年対比 90.9%
 - ・令和5年1月~9月の道内・累計出荷量: 味噌 前年対比 91.4% : 醤油 前年対比 100.9%
 - ・令和5年1月~8月の全国・累計出荷量: 味噌 前年対比 96.6% : 醤油 前年対比 97.8% ・令和5年9月の道内単月の出荷量は、醤油・味噌ともに大幅に減少
 - した。 1月~9月の道内累計出荷実績は、醤油が前年比微増で、味噌は大
 - 幅に減少した。
 - 全国の1月~8月の味噌・醤油の累計出荷量も悪い。
 - ・味噌の原料となる国産米 (R 5 年産) 価格が大幅に上昇しており、 組合員からは数量を確保できていない情報も届いているため、業界 として厳しい状況が続いている。 (全道)

窯業・土石製品

- 10 月の生コン出荷量はおよそ 334 千 m³。 (前年同月比 %.6%)
 - ・地域別には、前年同月を上回った分会(協組)は27分会(協組)中 8分会(協組)で前年を下回った。前年同月と比較して、増加したのは千歳地区、西十勝、後志など。一方、減少したのは北見地方、室蘭、岩宇などであった。 (全道)
- ●十勝地域では、公共事業の減少などから生コンの需要が落ちており、砂・砂利の在庫を多く抱えている。販売価格は殆ど変わっていない中、原油価格の高止まりや電気代の高騰などにより、収益は減少傾向が続いている。 (全道)

一般機器

- ●インボイス制度で請求書等の改定が生じており、印刷関連の組合員は 受注が増加している。
 - ・景気対策として、所得税や消費税減税(特に食料品・電気代等の軽減税率の設定)に期待するほか、住民税非課税世帯に加え、中低所得者の子育て世代に向けた一時給付金を支給するなどの支援が重要と考える。 (札幌)
- ●好転した項目があるが、前年の低いベースが基準となっているためで

- あり、景況としては以前厳しい状況にある。今後も楽観視はできない。 (旭川)
- ●観光客は増えており一見賑やかそうに見えるが、他部門への波及は少ない。
- ・「新幹線延伸」及び「冬季オリンピック誘致」が不透明となったことで、仕事も停滞してきた。
- ・原油、資材、電力、運送等全体の価格高騰が継続し、影響を大きく 受けている。 (全道)

その他

- ●10月期のトドマツ原木の工場への入荷は、前月期同様、順調に推移している。市況は、在庫が不足している状況にはなく弱保合で推移している。国有林材のドドマツ一般材について、オホーツク及び道央圏では動きが出てきているものの、道北及び道南圏については不落が続き、10月期に大幅な価格の見直しを行うなど、その対策に苦慮している。しかしながら FIT の影響から、原料材については安定かつ高値で推移している。
 - ・10 期のカラマツ原木についても、順調に推移している。9月後半から、徐々に発注が入り、函館、苫小牧の港から原木が本州方面への移出に活気が出てきている。中国木材鹿島工場の火災により、桟木の発注が相当量あるようで、一部で活気づいている。市況についても弱保合で推移している。
 - ・トドマツ製材市況は、先月に引き続き景気後退等の影響により、新規住宅需要が前月に比べ 8.4%の減少であることから、受注は益々減少している。産業資材も減少傾向で推移している。価格は弱気配〜保合の状況にあり、カラマツラミナについても、減少傾向で推移している。また、市況はカラマツ、エゾ・トドマツは弱含みが見込まれる。紙原料は、不足気味で原料材価格が上昇しており、原料の取り合いが全道的に見られている状況であるが、国内チップ買取価格の上乗せはなく、希望価格にはほど遠い状況が続いている。木質バイオマス原料については、順調に集荷されている模様であり、価格も高止まりの傾向が相変わらず続いている。 (全道)
- ●製材受注減少による生産調整期間が、間もなく半年を迎える。これだけ長期間に渡る生産調整はかつて経験がない。賃金上昇が物価高騰に追いつかない状況では、なかなか改善しないのではないかと危惧する。
- ●北海道は閑散期に入り、状況は先月同様である。
- ●新造船、修繕船、橋梁、陸機関係は共に受注好調である。組合員は少数で対応しているが、人員不足、残業規制等で納期遅れが生じるなど厳しい状況が続いている。今後は人員確保、人員育成が課題であり早急に対応が必要とされる。 (室蘭)

(全道)

非製造業

卸売業

- ●10 月より組合員 24 社のうち 1 社の経営状況が厳しくなっており、社長が交代して外部からの支援を受けながら営業を継続している。 (全道)
- ●生活雑貨は値上で消費者の動きが鈍く在庫が増加しているが、値上により売上高は横ばいである。
 - ・靴履物は原材料・製品仕入れ価格の上昇を踏まえ数回の値上げを 行っており、高価格帯と低価格帯商品の二極化が進んでいる。
 - ・空調機器、事務機器、建築資材は建築価格の高騰による計画の見直 しのあおりを受け売上が減少しているほか、人手不足で現場技術者 の養成が滞っている。
 - ・組合施設の貸会議室の需要は旺盛で、収入は対前年2割増しとなっている。 (札幌)
- ●10月27日(金)に組合設立60年記念式典・祝賀会を挙行できた。
- 令和 5 年 10 月期の当組合買付高は仲卸、荷受 1,549,650 千円で、先月の 9 月期実績額 1,554,730 千円より 5,080 千円ほど減少した。
 - ・9月はシルバーウィークで稼働日数が減少したが、それなりの観光 需要はあった。10月分については需要が伸びたというより、相変わ らずの生鮮高値によるものであり、物量は伸び悩んだ。11月も高値 継続がアナウンスされているが経過を見守りたい。
 - ・円安基調が顕著になってきたが、物価高の影響を組合・組合員企業はどのように対応しているのだろうか。 (札幌)
- 資材高騰の影響で新築住宅建築の減少傾向が続いており、資材の動きも悪化している。 (全道)

小売業

- 9月末に行ったローンカードのダイレクトメールにより、新規入会者が増加した。 (札幌)
- ●前年比較 物販 99.5%、金融 94.0%
 - ・例年より気温が高く天候も良かったので人通りも多く観光施設や飲食店等が賑わっている。業種別では設備関係が125%、家電が108%と前年を上回ったが、食料品では商品が値上がっているにもかかわらず98%と、辛抱しながらの消費が伺える。 (旭川)
- ●10月29日(日)『2023 フードバレーとかちマラソン』が帯広市で開催され、ハーフの3,136人を含む計5,024人がエントリーした。ハーフは日本陸上競技連盟公認コースであり、道内外からランナーが集まった。昨年は3年ぶりの開催だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため様々な制約があった。今年は4年ぶりに中央公園での飲食店も解禁となり、多くの参加者・応援客が十勝の食を堪能できた。十勝の観光等魅力を発揮できる大会なので、来年も道内外からの参加を期待したい。 (帯広)
- ●コロナ禍から抜け出したのはよいが、止まらない物価高騰、インボイス制度、最低賃金の引上げや社会保険の高騰、地域の少子高齢化など経営環境が厳しい状況が続いており、ゼロゼロ融資の返済も始まりつつある中、当会の加盟店も廃業や経費削減による脱退が目立っている。また、アルバイトを含めた人材の確保も厳しい状況であり、本当にやりたい事業ができずにいる事業者が多い。 (新ひだか)
- ●10月は地元客の来店が鈍く、店舗売上は良くなかった。
 - ・毎週土曜日の早朝、観光客が食堂で朝食を目当てに行列を作る状況 であった。
 - ・平日の午後は観光客(外国人少なめ)が買い物に訪れていた。
 - ・月末には特売日があり、地元客に加えて観光客も購買していた。

(小樽)

(帯広)

- ●昨年同月と比べ、販売数量が著しく落ちている。人口減少の影響もあるが、やはり節約の意識が高いのだと思う。エネルギー業界全体の経営状況は厳しいままである。 (稚内)
- ●10月については気候も従来通りとなり、衣料品店ではようやく秋・冬物に動きが出始め前年同時期からは少し売上が伸びた。また、灯油等を扱う燃料販売店も暖房シーズン到来に忙しさを増した。その他の業種は前年並みである。
 - ・携帯電話販売業、旅行業、保険業の3事業中、旅行業は順調に推移、保険業は営業体制が未だ整わず前年割れ、1店舗となった携帯電話販売業はスタッフの充足からフリー客対応や出張販売を増加し収支改善に努めている。 (釧路)
- ●10月2日のWTI原油価格は88.82ドルで先月から見て3.27ドルの反発でスタートした。これは、米国原油在庫の減少、並びに主要産油国の原油供給が減り需給の逼迫が続くとの見方が反発の要因と見られる。その後中東の地政学リスクが高まり反発するも、世界経済成長の鈍化等で反落し、31日のWTI原油価格は81.02ドルとなった。
 - ・組合員の業況について、10月は国の元売りへの補助が新たな算定方法に改定されたため、原油価格は若干の反落から、末端市況も10月の前半に下降改定となった。毎月のごとく量販店の価格に追従せざるを得ない状況から利益は圧縮状態となっている。政府は10月中にガソリン小売価格を175円程度になるように算定方法を改定し、9月7日から適用を開始したため、10月には小売価格の改定が行われ

たものと思われる。

●例年、この時期の自転車の動きはほぼない。除雪機やストーブを扱っている店は、積雪の時期が遅いため動き出しが悪い。 (全道)

(HIIIH)

- ●20日から HOKKAIDO LOVE!割「秋冬キャンペーン」が再開し、来 月からは「函館市プレミアム付商品券」もスタートするため、集客期 の年末商戦に向けて大いに期待が持てる。
 - ・インバウンドの入り込みは好調だが、物販店の利用に繋がっていない課題の解消に向けて、組合では、店舗の売上を伸ばすためにGoogle ビジネスプロフィールでの店舗情報を整えたり、インバウンド客のニーズ調査を開始した。今後、この調査から得られる情報をもとに、販売促進のために全店舗にフィードバックを行う予定である。 (函館)
- ●観光客はコロナ前の80%まで回復してきた。
 - ・鮭の価格は入荷が少なく高値で推移している。
 - ・秋刀魚も高値で推移していた。
 - ・生筋子は価格が安く売上が良かった。
 - ・年末に向けての毛蟹の入荷が少なく苦戦している。
 - ・帆立は徐々に価格が下がって販売しやすくなってきた。 (札幌)
- ●売上高対前年比96.4%の実績。
 - ・大口先への販売状況は変わらないものの、来店客数減少により前年 比減少となった。 (札幌)
- ●10月は大型客船の入港があり、インバウンド観光客が多く見られた。
- ・修学旅行生や外国人ツアーも昨年に比べると順調に推移している。
- ・10月13~14日に駅西都セールを開催した。商店街としての売出し を行い、毎年恒例の玉ねぎ販売を行い大盛況であった。
- ・インボイス制度が始まったが、組合員は特に問題やトラブルはなさ そうである。 (釧路)
- 夏物商品が引き続き好調であり、4Kテレビの売れ行きも好調だった。・商品の値上げで売上単価が上昇していた。
 - ・札幌市の冷蔵庫・寒冷地エアコンの補助金も売上増加に寄与している。 (全道)
- ●製品価格の値上げによる販売不良と大型機械の納期遅れにより、組合 員は減収傾向にある。 (全道)
- ●10月の中東原油価格をみると、月初には一時低下したものの、その後は再び上昇に転じ、月間を通して1バレル当たり90ドル前後で推移した。この間、北海道におけるガソリンのSS店頭小売価格については、政府の燃料油価格激変緩和対策事業の延長、拡大に伴い、1リットル170円程度で推移した。また、10月の全国ベースでのガソリン出荷量をみると、前月に引き続き月間を通して低調に推移し、前年を下回った。
 - ・なお、11月2日に閣議決定された「総合経済対策」により、燃料油価格激変緩和対策事業が2024年4月末まで講じられることとなり、石油製品のSS店頭小売価格は高値ながらも安定した価格で推移するものと思われる。 (全道)

商店街

●10 月共通駐車券の利用は、前年同月比 23.9%、買物共通バス券は、前年同月比 82.4%。観光・インバウンドの来街者も、戻りつつあるが、大型店閉店による中心部の影響は大きい。 (帯広)

サービス業

- ●相変わらず燃料用重油の高止まりや物価高の影響が続いており、10月 より入浴料金を10円値上げしたものの効果は不透明である。 (全道)
- ●好況業種として捉えられている IT 業界だが、9月末が半期決算だった 道内中小 IT 企業の多くは増収微増益で終了した。企業の DX 化に伴う クラウドサービスへの移行や業務効率化、セキュリティ対策の需要が 堅調に推移して、システム開発案件が途切れることはなかったが、技 術人材不足が影響して思うような案件獲得ができなかった。
 - ・価格転嫁が徐々に進んで案件単価が上昇したため、電気料金をはじめとするオフィスコスト増をカバーできるようになってきたが、人件費の上昇まで補うことは困難で、期待通りの利益確保が厳しい状況で業況感の改善には至っていない。
 - ・来期も引き続き、システム開発案件需要が堅調に推移することや チャット GPT に代表される生成 AI 絡みのシステム開発案件の伸長 が予測されている。しかし、技術人材不足や、専門性の高い技術ス キルの人材不足で思うように受注できない悩みが続くと見られる。 既存人材に対する生成 AI 等の高度技術習得のため、リスキニング教 育受講がコストや時間の問題で進んでいないことも、道内中小 IT 企 業にとっては喫緊の改善課題となっている。 (全道)

建設業

●原材料費及び人件費の増加は続いており、収益への影響が生じている。・また、雇用人員不足による事業への影響が出ており、新たな事業獲得が難しい状況にある。(札幌)

運輸業

- ●売上高は前年同月比30.39%減少。
 - ・乗務員数は、前年同月比 2.3%減少。
 - ・9月分チケット取扱高は前年同月比 18.17%減少。

(札幌)